

宇都宮市立桜小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」89%、「自分の良さを人のために生かしたい」92%「家の人はあなたが褒めてもらいたいことを褒めてくれる」89%と県や市の平均を上回っている。このことから、学年全体で自己肯定感が高く、学習や活動に意欲をもって取り組んでいることが伺える。

○「毎日朝食を食べている」96%「早寝早起きを心掛けている」90%「家での決まりや約束を守っている」95%と県や市の平均を上回る数字である。このことから、規則正しい生活習慣やルールを守ることに対する家庭教育がきちんとなされていることが伺える。

○「学校の宿題はためになっている」88%「学校の宿題をしている」93%で市や県を上回っている。家庭での学習、自主学習への習慣が身に付いてきている。

○「難しい問題に出会うとよりやる気が出る」88%で県や市の平均を上回っている。根気強く、あきらめずに学習しようという意欲が見られる。

●「自分は勉強ができる方」48%、「国語の問題を解く時間は十分だった」42%「算数の問題を解く時間は十分だった」48%と県や市の平均と比較しても下回っている。さらに、「家で学校の予習・復習をしている」児童も県や市の平均と比べるといずれも下回っている。今後は、家庭学習で予習・復習を行うよう声掛けを継続していく。

●「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」60%と、県や市の平均を下回っている。今後難しい課題に取り組ませる際には、児童の能力に合わせて、スモールステップで段階的に課題に取り組ませていくことで、達成感を味わわせて自信につなげていきたい。

宇都宮市立桜小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
つかむ、学び合う、まとめる、振り返るを活用した学びのスタイル「さくらの学び」の充実	すべての学級に学びのサイクルを掲示し、授業で継続実施している。「学び合い」に重点を置き、自分で考えてから話し合う時間を設け、学習が深まるような取り組みをしている。	「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4・5年生ともに、90%以上だった。「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよくおこなっている」の質問に肯定的に回答した5年生児童の割合は、県の平均と比べて高くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙から「家でテストで間違えた問題について勉強をしている。」の肯定的な割合4、5年生ともに市の平均を下回っていた。	家庭学習の定着に向けた指導の工夫。	年2回の「学習がんばり週間」を実施し、家庭と連携して望ましい家庭学習の習慣作りに努める。